

平成29年度学校評価(看護専攻科)

加茂暁星高等学校 学校評価委員会

<p>専攻科の目標</p>	<p>1. 生命の尊厳を大切に、人を人として尊重することのできる心豊かな人間性を養う 2. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人としての看護観を養い、問題解決能力、倫理的判断力を養う 3. 看護の対象を、身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解し、人々の健康上の問題を解決するために科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う 4. 保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、その中における看護の役割を自覚し、他職種と協働しつつ専門職業人として地域社会に貢献できる能力と態度を養う 5. 目標をもっていきいきと学び続ける力と態度を養う</p>					
<p>重点目標</p>	<p>1. 国家試験、進路実現に向けて学力の向上を図る 2. 看護師としての専門的知識、技術の習得を図り、看護観を育む 3. 集団生活を通し、社会性の向上を図る 4. 家庭、地域に情報を提供し理解と協力を得る</p>					
<p>自己評価</p>						<p>学校関係者評価</p>
<p>評価項目</p>	<p>取組内容</p>	<p>評価指標</p>	<p>達成状況</p>	<p>評価</p>	<p>次年度への改善策</p>	
<p>1-1 県主催の就職説明会に参加する(専攻科2年)</p>	<p>就職説明会への参加を促し、目的とする病院の説明が聞けるよう指導する。</p>	<p>クラス全員が参加する。参加した学生全員が目的の病院の説明が聞ける</p>	<p>クラス全員が参加し、目的の病院の説明を聞くことが出来た。</p>	<p>5</p>	<p>継続</p>	
<p>1-2 スクールカミングディを実施する(専攻科2年)</p>	<p>昨年度の卒業生を迎え、進路選択の方法、実習・国試対策・就職活動の多重課題に対する取り組み方など、昨年の経験を身近な存在として伝えてもらうことで、進路選択、今後の取り組みの参考となるよう働きかける</p>	<p>実施後のアンケート調査で、90%以上の肯定的回答を得る</p>	<p>卒業生11名を迎えて、進路選択の方法、多重課題への取り組みなどについて、専攻科2年生に伝えることができた。日程が合わず3名の卒業生が参加できなかった。</p>	<p>4</p>	<p>卒業生全員が参加できるように早めに日程を調整する。内容は継続</p>	
<p>1-3 就職試験(筆記・面接)の指導を行う(専攻科2年)</p>	<p>履歴書の書き方、面接試験の受け方などのガイダンス 小論文の指導 面接試験の練習</p>	<p>就職試験までにガイダンスおよび各指導を全員が受ける</p>	<p>面接指導、履歴書指導を、就職試験受験者全員に行った。</p>	<p>5</p>	<p>継続</p>	
<p>1-4 CLASSIと朝テストを実施する(専攻科1年)</p>	<p>国家試験の必修問題、病態疾病の授業に関連した解剖生理学などCLASSIで配信し、翌朝テストを実施する。自己採点することで自己学習につながるよう促す</p>	<p>今年度1年で150回のミニテストを実施する。欠席なく全員が受験する日が90%以上</p>	<p>150回以上実施した。終講試験間際には学生たちが問題を作成しCLASSIに配信した。数名の特定の学生が朝学習に間に合わないことが多かった。</p>	<p>3</p>	<p>次年度は専攻科1年生の人数が多くなるためCLASSIを活用する</p>	
<p>1-5 看護師国家試験の模擬試験を月1回実施する(専攻科2年)</p>	<p>月1回の国試模試を実施する。模試実施後、自己学習を促す。次回の模試の目標について指導確認をする。概ね前期には必修問題の得点率が80%、12月までには全員が模擬試験で合格圏に入る</p>	<p>9月までには必修問題の得点率が全員80%となる。12月までには模擬試験の成績が全員合格圏に入る</p>	<p>12月の模擬試験では合格圏内の学生が10%だった。自学自習の立ち上がりが遅かった。</p>	<p>1</p>	<p>領域別実習の合間に国家試験模擬試験を実施し、国家試験に対するモチベーションを早めにしていく。</p>	
<p>2-1 北海道の病院において研修をうける(専攻科1年)</p>	<p>緩和ケア、リハビリテーション看護の先進的取り組みを行っている病院で研修をうけ、自己の看護観を再考するよう促す</p>	<p>研修内容をレポートにまとめている病院で研修をうけ、自己の看護観が記載されている</p>	<p>研修後のレポートを記載した。見学したことだけを記載したレポートも数枚あった。</p>	<p>2</p>	<p>北海道研修旅行は継続。</p>	
<p>2-2 各領域別実習の終了後、自己の振り返りを通して自らの社会人基礎力について具体的に振り返りを行う。(専攻科2年生)</p>	<p>12日間の領域別実習が終る毎に、自己の行った実習場面を想起し、社会人基礎力について振り返りをまとめる。</p>	<p>実習終了時(12月)には社会人基礎力の各項目がすべて達成される。</p>	<p>領域別実習終了の帰校日に自己の課題について振り返る機会を逸した。方法を変更する</p>	<p>1</p>	<p>社会人基礎力については学生に周知する。振り返りの方法は検討中</p>	
<p>2-3 看護研究発表会に参加し、他者の看護観に触れ、自己の看護観を見つめる機会とする(専攻科1年)</p>	<p>専攻科2年生の看護研究の発表会に参加する。発表に対して講評を行えるよう指導する。</p>	<p>全員が講評を書き、専攻科2年生に伝える。</p>	<p>2月後半に予定している</p>			

自己評価						学校関係者評価
評価項目	取組内容	評価指標	達成状況	評価	次年度への改善策	
2-4 基礎看護学実習Ⅲの学びをレポートにまとめ、他者に看護観を伝えるよう指導する(専攻科1年生)	基礎実習Ⅲを実施後、経験した看護をまとめ、学びを明確にするよう指導する。ケースレポートを聴衆がわかりやすいようにまとめプレゼンテーションの指導を行う	実習後に学びのレポートを記載する。体験した具体的な内容を抽象的な内容に考察し、看護観を明確にできる	現在、基礎看護学実習Ⅲの実習中			
3-1 秘書検定3級を受検し合格率80%以上を目指す(専攻科1年生)	5月より月1～2回程度の手作り模試を実施する。試験(11月)の1か月前からは、朝学習の時間を使い、ミニテストを実施する。手紙の書き方、敬語の使い方、連絡報告相談の仕方など社会人としての基礎的なスキルの習得を促す	11月の秘書検定で合格者が80%以上となる。敬語の使い方、連絡報告相談の仕方など基礎看護学実習Ⅲで適切に行える	合格率は77.6% 連絡報告相談や敬語については、適切に実施できるよう努力している様子がうかがえる。	3	CLASSIを使い、効果的な学習につなげたい。	
3-2 専攻科合同研修を実施し、チームで働く力について考える	専攻科1年生・2年生を縦割り班編成し、研修中は常に行動を共にする。セッションを通してチームワーク、リーダーシップ・メンバーシップ、交渉と合意について考察できるよう指導する	異学年間のコミュニケーションが増える。プレ社会人としてチームで働く力を養う。研修終了時のリフレクションで肯定的評価をえる。	異学年でチームを作り、新校舎の“サイン”を作成した。放課後もコミュニケーションをとっている様子が頻繁にみられた。	4	継続。人数が増えるため、研修宿泊施設を検討する	
3-3 全学年生徒による合同研修を実施しメンバーシップ、発信力について学ぶ	看護科・看護専攻科の全ての生徒を縦割り班編成し、活動を通してメンバーシップ・リーダーシップ、異学年間のコミュニケーションを促す。集団で動く際は連絡報告相談などの発信する力が重要であることが分るように働きかける	実施後のアンケート調査で、90%以上の肯定的回答を得る	看護高等学校の全国大会のため、日程が確保できず実施できなかった。		5学年合同研修を実施する。	
3-4 校内での挨拶、マナーの徹底	基本的な挨拶ができるよう促す。表情や身だしなみなど非言語的コミュニケーションにも配慮するよう指導する	学生全員が好感のもてる挨拶、返事ができる。	挨拶をする風土が定着した	5	継続	
4-1 クラス通信を発行する	クラスの様子、今後の予定などについて通信で家庭に知らせる	月に1回以上の通信を発行する。	専攻科2年生は臨地実習が多いため6回/年となった。	4	必要なことは通信として連絡できている	
4-2 看護科の行事・取り組みをHPに掲載できるよう企画広報部へ提案する	校内での行事、ボランティアなど、学生の取り組みについて適宜HPに掲載し、地域・保護者に知らせる	戴帽式、ボランティア、合同研修の掲載を働きかける	主だった行事についてはHPに掲載した。	3	継続	
4-3 学年PTAおよび三者面談を適宜行う	1年生は看護専攻科で初めての基礎看護学実習Ⅲの実施前に、保護者会を行う。2年生は適宜進路選択に向けて3者面談を実施する	50%以上の保護者の参加がある。三者面談は全員の保護者と実施する	専攻科1、2年合同でPTAを実施した。看護学生の親の体験や悩みを話すことが出来た。三者面談まで必要のない学生が多かった。	3	専攻科合同で行うPTAは好評だった。	
				平均	3.3	

【評価基準】1 全くできなかった 2 あまり達成できなかった 3 どちらともいえない 4 ある程度達成できた 5 達成できた